



教育という共通言語で語りませんか ～FDカフェ～



中部大学 大学教育研究センター長 教授
杉井俊夫

本学では、FD活動重点目標『魅力ある授業づくり』のもと、大学教育研究センターのホームページで紹介しているとおり、さまざまなFD活動を行っている【図】。「FDカフェ」は、2013年3月から始まった特徴的なプログラムの一つであり、ここに紹介したい。

FDフォーラムやFD講演会は、参加した教職員が聴衆となり情報を得ることを目的としている。講演後の質問時間の短かさや大勢の前での質問のしにくさ、また、講演内容は重要そうだが現場にどのように関係してくるのかイメージできず、身近な課題と受け止めにくいということもある。さらに、教育現場で悩みがあっても「相談できる場所がない」「他の教職員はどうしているのだろうか？」ということもある。特に大学教員は、研究と違い、教育においては独自で解決しようとする、あるいは問題を放置したままにする傾向にあると考えるのは筆者だけであろうか。

こうした大学教育に関するさまざまなテーマ、日々直面する上での課題の解決などの実践的なテーマについて自由に意見を交わすことで『情報やスキルを共有する場』を提供することを目的として始まったのが、この「FDカ

フェ」である。基本的には各回のテーマを定め、話題提供者の概説、ファシリテーターの進行による意見交換というグループ研修の形態で運営している。教職員が気軽に情報交換や意見交換を行うことで互いの教育力向上を目指しており、参加者同士による全学にまたがるネットワークづくりも

狙いとしている。誰もがふらっと立ち寄れることを考え、お茶とお菓子を楽しみながらのカフェ形式で気軽にお話しただけの「教職員のしゃべり場」である。

これまでのテーマと参加者数を【表】に示す。2015年度のスタートアップカフェ イン スプリング（春カフェ）は、主に新しく着任された教職員にとって本学に少しでも早く慣れていただくことを考え、教育システム以外の事柄も含めたさまざまな疑問等を解消しようと試みた新たな取り組みである。他にも、大規模私立大学（学生数8,000人



FDカフェ

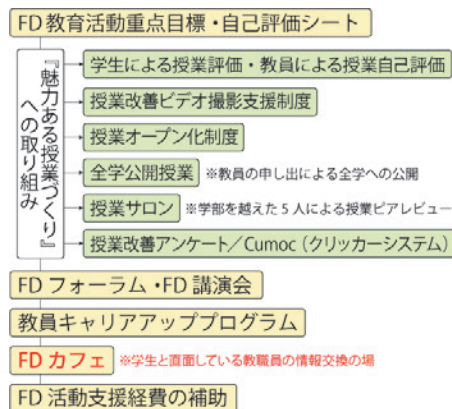
上、現在34大学が加盟）で構成する「全国私立大学FD連携フォーラム(JPFF)」が提供しているオンデマンド講義を活用した話題提供も行っている。

これまで参加いただいた皆さんからの感想には、「異なる分野の先生方でも悩みを抱えている点は共通」「授業以外の学生との関わりや学生の育て方を見つけた」「教員に見えている学生の姿の裏側にそれぞれの学生の抱えている問題があることを理解した」「各先生の話の中にヒントがあった」「もっとディスカッションの時間が欲しい」など、毎回、カフェ開始時の緊張感とは全く違った発見に満足感を持たれる方が多い印象を受ける。今後は、「私の授業づくり」をテーマにした開催も予定しており、教職員の皆さんからも多面にわたってのテーマをお寄せいただければ幸いである。

専門分野は全く異なっても、ともに学生がいるフィールドの中で教育という共通言語を使ってみると、全く知らなかった教職員同士、いつも時間が経つのを忘れるほど白熱し、終わった後に新たな気づきの満足感がある。そんな「FDカフェ」で気軽にお茶しませんか？

【表】FDカフェのテーマと参加者数

	テーマ（話題）等	参加者数
第1回	大人数講義の運営・その他～授業を進める上でのさまざまな知恵～	13人
第2回	アスペ学生への理解と支援	30人
第3回	双方向授業の実践	13人
第4回	授業法の工夫	13人
第5回	アクティブ・ラーニング	16人
第6回	FDを楽しむ♪	12人
第7回	板書派？ パワポ派？	12人
第8回	アスペ学生への理解と支援	14人
第9回	障がいのある学生の理解と支援	14人
第10回	教授法の工夫	12人
第11回	スタートアップカフェ イン スプリング（春カフェ）	16人
第12回	ルーブリックを使って評価する	15人
第13回	スタートアップカフェ イン オータム（秋カフェ）	10人



【図】本学のFD活動の取り組み